

紅茶産業とサスティナビリティ —エム・シー・フーズの場合



サスティナビリティは洋の東西を問わず企業経営の重要な課題の一つになっている。特に飲料産業は農産加工業であるから、その原料を生産する農業の支援は飲料産業の持続性にとって重要な要素となる。ビバリッジ ジャパンは、これまで世界各地の果実、果実加工品の产地や生産現場をリポートしてきた。ここでは紅茶にスポットを当て、スリランカの紅茶産業における農業支援をエム・シー・フーズに聞いた。

紅茶の大手サプライヤー

エム・シー・フーズ(MCF)は果汁や果実加工品、紅茶、製菓原料、酪農原料を幅広く日本市場に紹介している。同社は旧日本紅茶と旧住田物産が合併して設立され、このうち日本紅茶には日本初の紅茶製造会社としてスタートした歴史がある。

そのため同社は伝統的に紅茶に強く、2014年から



Mabroc社の消費者製品

スリランカの大手紅茶メーカーであるMabroc社の製品を取り扱っているほか、ケニア、インドネシア(ジャワ)、インド産の紅茶を販売している。日本ではバルク品を中心に事業展開している。このうちMabroc社製品は、全量がレインフォレスト・アライアンス(RA=Rainforest Alliance)認証品となっていて、バルク製品についても切り替えを行なっている。

スリランカ紅茶とMCF社

スリランカは、紅茶が外貨獲得の有力手段で、その生産量は年間で約30万トンに達する。品種は中国種と、アッサム種で、スリランカでは南部山岳地帯の西側、東側地域、それと標高に応じてブランド化されている。

具体的には、標高600m以下をLow Grown Tea(低地産)、同600~1,200mをMedium Grown Tea(中地産)、1,200m以上をHigh Grown Tea(高地産)と称し、全生産量の60%以上を占める低地産は主にアッサム種、高地産は主に中国種で、中地産は混在で栽培されている。

また高地産のうち、国土の東側斜面産をウバ(Uva)、西側斜面をディンブラ(Dimbula)、標高2,000~2,400mの最高地産をヌワラエリヤ(Nuwara Eliya)と呼ぶ。このほか中地産、低地産にも地域名称がある。MCF社によれば、それぞれ香りや水色、渋味など個性が異なるといい、特に高地産になるほど香り立ちが良く、きれいな水色、さわやかな味わいになるといふ。

このうちMabroc社は年間で約2万トンを販売しており、スリランカ国内で約65%の市場シェアを誇

っている。同社は1988年に設立された紅茶メーカーで、2010年にスリランカ最大の企業集団であるHayleysグループの傘下となり、現在は紅茶の製品化と輸出を担当している。同グループは、茶やゴムなどの農園経営、紅茶など農産加工品製造、輸出入、電力等エネルギー事業、投資、織維事業、建設、小売業、レジャー事業など幅広い産業を手がけている。Mabroc社の紅茶はアジア、中東、欧州、ロシアなど世界50カ国以上に輸出されており、日本ではバルク品(工業用)とリテール品を販売している。

KVPL社と社会支援

スリランカでは大手農園管理会社20社と中小農園主が農園を管理している。総栽培面積は20万2,500haで、その46.1%となる9万3,300haを大手管理会社20社で管理している。Hayleysグループは大手管理会社の一角を成しており、傘下に農園管理会社としてKelani Valley社、Talawakelle社、Horana社がある。これら3社を合計すると、農園47カ所、栽培面積9,605ha、製茶工場40カ所となる。

なかでもKelani Valley(KVPL)社はグループを代表する企業で、紅茶、ゴム、ココナツ、シナモンなどを栽培、製品化している。総管理面積は1万3,128haで、うち栽培面積は8,151ha。生産量は紅茶が7,000トン、ゴムが3,000トンだ。

紅茶事業では、管理農園が18農園で、ヌワラエリヤ、ディンブラ、サバラガムワの各地域に点在している。総栽培面積は3,600haになる。また製茶工場を11カ所所有しているほか、インスタントティー工場が1カ所ある。

KVPL社が管理する地域の人口は5万8,000人で、同社は9,762人を雇用している。農園を指導するスタッフは590名おり、各農園を管理している。同社は「A Home for Every Plantation Worker」プログラムとして、労働者の雇用改善と生活の質(QOL)向上に向けた活動をしている。具体的には生活環境、コミュニティ能力開発、健康と栄養、若者の成長支援の4分野に尽力しており、MCF社もこれを支援しているといふ。

①生活環境：労働者と家族の生活環境改善をめざして住宅リフォーム・修繕、工場や屋外トイレの設置、住居と居住区の電化、新規配水設備の導入・配水システムのアップグレード、労働者住居エリアの道路の改善などを行なっている。

たとえば「WATER PROJECTS」は、Hayleysグループと共同で実施したプロジェクトで、浄水供給装置を取り付け安全な水を供給するというもの。スリランカ北部地域の約500村では、水の衛生状態が



悪く40万人以上の住民が慢性腎臓病に罹患していることから始まったといふ。

②健康と栄養：基本的な健康の増進を図るため、すべての農園コミュニティーでの定期的な医療支援として、健康診断や栄養診断、予防接種、子どもの発達相談や母親の健康相談、高齢者の健康モニタリングを実施している。また地域共通の救急車サービスの提供、高齢者のデイケアセンターの設置運営を行なっている。

「EYE CAMP - PEDRO」では、ヌワラエリヤ地区の農園労働者や家族等を対象に眼科検診を行なった。対象は530名の高齢者で、うち103名から白内障が発覚し、手術が行なわれたといふ。

③コミュニティ能力開発：高等教育を支援するための直接融資制度の提供、優秀者へのインターンシップの提供、農園と提携したマイクロファイナンスの提供、労働者住宅協同組合の創設、子どもの学校と保育園の提供、世帯の現金管理プログラムを行なっている。

④若者の成長支援：中小企業経営のためのトレーニング、プライダルや美容ケアプログラム、ホームガーデニング、英語とコンピューターの教育、ILLO(国際労働機関)の基準に従った子どもの発達支援プログラム、若者の職業訓練、小学校の設置などがある。

環境活動では、紅茶の売上げ1kgごとに1.50ルピーを「A Home for Every Plantation Worker」プログラムが行なう慈善基金に寄付しているほか、MCF社では2022年からすべての紅茶バルク製品をRA認証製品へと順次切り替えていく。また緑のスリランカ活動として、生物多様性評価とそのためのGPSを活用した生物生息地の可視化、高保全価値評価をしている。このほか100万本の植樹をめざして苗木の栽培、植樹支援を各地で実施しており、地区的労働者や地区管理している学童等が参加した。

こうした活動は結果的に紅茶を生産する農家と農園を支援し、労働者の質を高めることに役立つ。MCF社は、自身の紅茶事業を拡大させることで、スリランカの紅茶産業を支援している。